

施策評価管理シート

2023(令和5)年6月作成

施策体系	政策	1	支え合い 健康でいきいきと暮らせるまち	担当部局(室)名	部局長名
	基本施策	2	保健・医療・福祉のネットワークづくり		
	施策	3	地域医療		
				福祉子ども部	岩本 靖之

1. 施策の基本方針(目指す将来像)



- 市立病院を核とする地域医療機関との機能分担と連携を強化して、安心して信頼できる地域医療体制を構築します。
- 伊賀地域における安心して安定した救急医療体制を確立するため、関係機関と連携しながら地域内の病院の機能分担と連携の強化をさらに進めます。

2. 令和4年度の取組内容及びその成果



- ・伊賀地域の救急医療を担う上野総合市民病院、岡波総合病院と名張市立病院で定期的開催する「伊賀地域二次救急医療に係る意見交換会」において、3病院での輪番体制維持による二次救急医療体制の継続確認など、地域における安心して安定した救急医療について協議し、連携強化や医療体制の確保に努めました。
- ・三重大学等による寄附講座の開設により、地域の医療体制等に係る調査研究を進めるとともに、市立病院への派遣医師の確保を図りました。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、三重県からの委託を受け、引き続き、市と名賀医師会が協働して名張市PCR検査センターを開設し、PCR検査を受けやすい環境を整備するとともに、地域医療体制の確保や感染拡大防止の取組を進めました。
- ・地域の一次救急医療を担う名張市応急診療所の運営を行いました。
(市立病院関係)
- ・公立病院としての役割を果たすため、地域医療機関の中心となり新型コロナウイルス感染症患者の受入れを積極的に行いました。その一方で、コロナ対応を優先とした診療体制や、院内における従事者のクラスター等の要因により一部の診療に制限が強いられた期間が発生しました。
- ・開業医や介護・老人施設等との連携に繋がる取組として、市立病院独自の地域医療連携ニュースを作成し、病院の近況等の周知に努めました。今後、更なる病診連携の強化に向けた取組を推進します。
- ・令和3年12月に設置した名張市立病院在り方検討委員会を計7回開催し、市立病院の医療提供体制や経営形態見直しの在り方等について、審議を経て答申をいただきました。

3. 施策指標(目標)の達成状況



施策指標(目標)の内容(単位)		基準値(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	達成率
地域医療機関(開業医や公立病院等)での現在の医療体制に満足している市民の割合(%)	目標	-	-	-	-	-	50.5	100.0%
	成果	48.8	53.8	53.4	57.6	60.0	59.5	
かかりつけ医を決めている人の割合(%)	目標	-	-	-	-	-	85.0	0.0%
	成果	77.7	78.9	77.1	74.7	73.7	74.7	
地域医療機関等から市立病院への紹介件数(件/月)	目標	-	-	-	-	-	554	0.0%
	成果	527	491	482	481	497	461	
市立病院から地域医療機関等への紹介件数(件/月)	目標	-	-	-	-	-	529	0.0%
	成果	526	524	478	470	521	504	

4. 成果や施策指標の状況を踏まえた課題や現状の分析



- ・持続可能な地域医療体制の確保に向けて、医療機関ごとの機能分化や診療領域の役割分担といった連携体制の確立・強化を図るなど、限られた医療資源を効率的かつ効果的に機能させることが必要です。
- ・かかりつけの医師、歯科医師、薬剤師をそれぞれ持つことにより、日頃からの健康管理や病気の予防・早期治療につながるのと同時に、かかりつけ医等が介護と医療の連携による在宅医療においても中心的な役割を果たすことを周知啓発していくことが必要です。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響等による患者の大幅な減少や、医療業務を委託している名賀医師会の医師の高齢化など、応急診療所を取り巻く環境が大きく変化する中で、医師の確保などの体制整備等が課題となっています。
(市立病院関係)
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の診療で制限が強いられたこともあり、地域医療機関等からの紹介件数は対前年度で減少しました。今後、ポストコロナ時代を意識し地域医療機関との更なる連携強化に取り組む必要があります。
- ・市立病院在り方検討委員会の答申で当院の「強み」や「弱み」の指摘を受けたこともあり、今後の病院運営に生かすとともに病院経営強化プランに生かします。
- ・地域医療体制の継続に必要な不可欠となる医師確保では、常勤医師数は年度末で35人となり、対前年度比で1人増となりました。初期研修医が2人増となり計3人となったことが主な増加要因です。診療の柱となる内科は13人で、前年度比較で現状維持となりました。在り方検討委員会の答申にも「医師の確保」は重要な要素とあるため、引き続き医師確保に繋がる取組を推進します。

5. 分析結果を踏まえた新総合計画推進に向けた施策の取組内容（令和5年度以降）



- ・伊賀地域の二次救急医療体制を確保するため、限られた医療資源を有効活用し、3病院による輪番体制を維持・継続します。
 - ・伊賀地域医療構想調整会議において、地域の実情に合わせた病床の機能転換や急性期機能のあり方等、伊賀地域の医療体制の方向性について協議を行います。
 - ・身近なかかりつけ医師等を持つ人の増加に向け、市ホームページや市内モニター等により周知啓発に努めます。
 - ・名賀医師会等の協力のもと、応急診療所での時間外の一次救急医療の確保及び一次・二次救急の役割分担、適正受診の促進等の啓発を行うとともに、安心できる一次救急医療体制を継続するため、応急診療所の在り方を含め、医師の確保など体制整備等の課題解決に向けた検討を進めます。
- （市立病院関係）
- ・市内開業医の高齢化に伴う医療提供サービスの低下が懸念されるなか、今後、新型コロナウイルスをはじめ新興感染症の対応が可能となる医療機関が求められます。医療計画に則った事業展開を行うとともに地域医療機関と更なる連携・協力体制の継続、情報共有に努めるほか、地域開業医への訪問を再開します。
 - ・市立病院在り方検討委員会の答申のほか市民や市議会からの意見等を踏まえながら、医療提供体制の在り方や運営方針等について検討し、病院経営強化プランの策定を進めます。
 - ・新型コロナウイルス感染症の対応を最優先したことやコロナ禍の長期化により、令和4年度も実施を見送った地域医療機関からの紹介件数の増加を目的とした地域開業医の訪問について、実施検討を行います。
 - ・ケーブルテレビで放送中の医療情報番組「メディ★ナバ」や、SNSを活用した情報発信を行っていますが、それらの有効性も検証しながら「伝える」から一歩踏み込んだ「伝わる」を意識し、市立病院を知ってもらう取組を推進します。
 - ・令和6年4月に医師の働き方改革に伴う時間外勤務の上限規制が始まります。職員が働きやすく、働きたいと思える環境の整備に努めるとともに、タスクシフト・タスクシェアの推進といった業務の見直しや効率化を図ります。

施策を構成する主な事務事業

*R4決算額が事業費1,000千円以上の事務事業を掲載しています（施設等維持管理、内部管理事務の事業を除きます）。

単位：千円

会計	事務事業名	部局名	室名	令和4年度内容	R4決算額	うち一般財源
一般	医療体制推進費	福祉子ども部	医療福祉総務室	夜間・休日の一次及び二次救急患者の受入体制を確保するとともに、救急医療の適正受診を促進し、地域で安心できる医療体制の整備を図りました。 ・年末年始在宅歯科応急診療委託 ・一次救急医療体制事業委託 ・救急医療情報システム運営事業	3,870	3,563
一般	開業医救急車受入支援補助金	福祉子ども部	医療福祉総務室	名賀医師会の会員である医療機関が名張市消防本部の救急車で搬送される患者を受け入れた場合に補助金を交付し、開業医療機関による救急搬送患者の受入体制を充実することにより、安定的な救急医療体制を確保するとともに、二次救急医療機関の負担軽減を図りました。	1,300	1,300
一般	病院群輪番制病院運営事業	福祉子ども部	医療福祉総務室	伊賀地域の二次救急医療に対応するため、名張市立病院・上野総合市民病院・岡波総合病院が行う救急輪番体制に必要な運営経費の一部負担を行いました。また、岡波総合病院に対しては、民間病院救急医療体制整備に係る一部負担を行いました。	49,896	23,656
一般	医療体制推進寄附講座開設事業	福祉子ども部	医療福祉総務室	関係大学に対して寄附講座を設置し、専門性の高い医療の研究を進めるとともに、名張市立病院への医師派遣等により、伊賀地域における二次救急医療の確保を図りました。	36,074	30,074
一般	看護師等修学資金貸付事業	市立病院事務局	総務企画室	市内医療機関において看護師等を確保し、地域の保健医療の充実につなげるため、看護師等を志し将来的に市内の医療機関に勤務する意思を有する者に修学資金を貸与しました。 ・貸与者 看護師23人(3年生：9人、2年生：7人、1年生：7人)	5,460	5,460
病院事業会計	病院事業会計	市立病院事務局	総務企画室	市民の命と健康を守るため、良質で高度な二次医療・救急医療等を提供するため公立病院を地方公営企業として運営します。令和4年度は長期化した新型コロナウイルス感染症の対応にも公立病院の役目として積極的に取り組み、地域住民の安全安心に貢献しました。また令和5年2月に市立病院在り方検討委員会より、7回の審議を経て答申をいただきました。	6,356,458	-